



春暖の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本学の教育にご理解とご協力を頂きありがとうございます。3月22日に4年生62名が無事に卒業し、看護師国家試験、保健師国家試験では受験者全員が合格しました。また、4月には新たに62名の学生を看護学科に迎えることができました。本号は平成28年度後期の学生生活の様子をお知らせします。平成29年度もどうぞよろしくお願ひします。 看護学科広報担当部会



4年生

平成28年度卒業研究報告会を行いました！



報告会后、4年生と教員との記念撮影

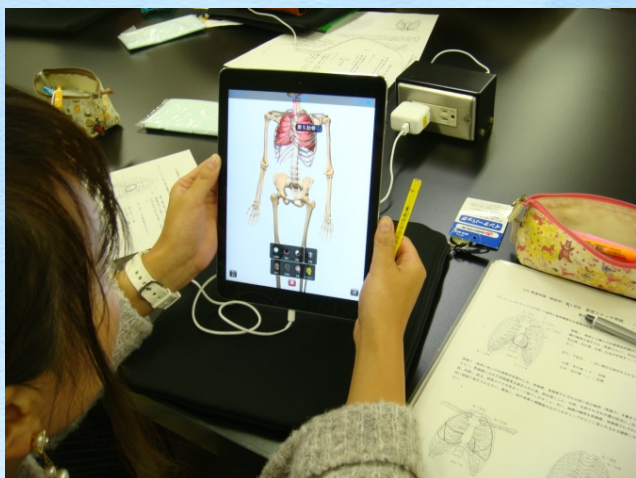
平成28年12月20日に「平成28年度看護学科卒業研究報告会」を開催しました。学生は4月から卒業研究のテーマを決め、教員の指導のもとこの報告会に向けて看護研究を進めていきました。その中で、それぞれのテーマに合う研究手法を用いて調査し、明らかになった結果から考察を導き、看護の知見をまとめました。報告会当日は4年生62名が進行、座長の役割も担い、パワーポイントを用いて発表を行いました。3年生も多く聴講しました。看護の臨床現場では、ひとつひとつのケアに科学的な根拠が求められ、看護研究はますます重要となっています。報告会で発表した内容を「卒業研究論文集」としてまとめ、4年生に配布しています。ご家族の皆様も、是非ご覧になってください。



無菌操作にて実験する
学生の様子

平成 28 年度後期 学生の様子

1 年生



iPad を使って心臓や肺の位置をスケッチしている様子

後期の看護特論（解剖学）では前期の解剖学概論を発展させ、看護学生にとって特に重要となる内臓や自律神経についてより深く解剖学を学びます。基本的に講義が中心ですが、時折実習スタイルでも行います。11月7日には、心臓や肺の位置を体表に投影すると各臓器のどの部分が何番目の肋骨の位置に相当するかについて3D解剖アプリを入れたiPadを使って作図・スケッチするという実習を行いました。最近の解剖学教育では、このようにIT機器を駆使して人体構造を立体的に把握する試みを行っています。普段からスマホを使っている学生にとっては、この種の作業はお手の物のようです。

2 年生

平成 28 年 11 月 9 日に、地震及び火災を想定した総合訓練を実施しました。本学では教職員及び学生に地震発生時の初期対応行動と火災発生時の避難行動を習得することを目的に、毎年三原市消防署の指導のもと消防訓練を行っています。この日は、小児看護学概論の技術演習終了間近に、全館放送にて緊急地震速報と地震発生の知らせがありました。技術演習をしていた看護実習室では、学生は上から落ちてくるものはないか確認をし、身の安全の確保を行いました。その後火災発生を知らせる放送があり、建物から渡り廊下を通して噴水近くの避難場所へ避難しました。学生は私語をしないで、落ち着いて、避難訓練に参加することができました。このような消防訓練の機会に、学生には将来、災害時に看護職として、患者や地域住民の安全を守る立場にあることを再認識してほしいと感じました。



わたり廊下を使用して避難している様子



3年生

3年生では、統合実習、急性期・慢性期看護実習、老年看護実習、母性看護実習を行いました。急性期看護実習では県立広島病院、三原赤十字病院で3週間実習を行いました。学生はこの実習で主に手術を行う患者への看護を学びます。そのため、実習前には手術による生体への影響を学修し、重症度の高い患者の状態を判断できるように準備します。実習中、患者の状態を把握できず、時に現場の看護師に厳しい指導を受ける時もありました。しかし、手術をした患者が元気に退院する時には、多くの学生は達成感を持っている様子でした。この実習で学んだ看護の知識・技術はどのような領域でも必要となるため、今後の看護実践に活かしてもらいたいと思います。



急性期看護実習後の学生の様子

教員の紹介 学科の名物教員をご紹介します!



成人看護学教授 岡田淳子

平成28年4月に着任し、あっという間に1年が経過しました。地域包括ケア時代を迎え「病院完結型」から「地域完結型」医療に移行し、看護師は、患者が入院しているときから在宅療養へ移行することを予測して、オーダーメイドの看護を提供しなければなりません。また成人期にある人が病気になった場合、通院治療が主体となるため、病気になる前の生活を維持しながら治療が継続できるように生活指導を行うことが重要になります。

今後、地域医療構想が進むなか、住み慣れた地域で生活する人に安心・安全な医療を提供できる医療従事者の育成が必須になっています。特に看護師は患者の最も身近な存在として、健康と生活を支える役割があり、変革する医療制度や社会保障へ柔軟に対応できる教養を身に付ける必要があります。5学科で構成する保健福祉学部は地域包括ケアシステムで重要となる多職種連携を、学生の時から実践教育できることが特徴です。この特徴を活かし、医療に携わるプロフェッショナルとして社会的責務や機能を理解し、チーム医療の中核となって役割を果たすことができる看護師を育てていきたいと思っています。

在宅療養している患者さんと一緒にカーブ観戦に行ってきました。進行性の難病であるALS患者さん達と一緒に笑ったり泣いたりして9年が経ちました。



平成 28 年度国際交流事業

平成 28 年 9 月 15 日～24 日までの 10 日間、第 2 回オーストラリア短期研修に看護学科から 2 人（3 年生）が参加しました。作業療法学科の 3 年生 4 人と引率教員のもと、キャンベラ大学での交流会、特別支援学校への訪問、高齢者活動ハウスの視察、シドニーでの異文化体験を行いました。2 人は「見るものすべてが刺激的で、また行きたい!」、「視野が広がった」と語っていました。同年の 11 月 28 日に本学はキャンベラ大学と正式に国際交流協定を締結しました。キャンベラ大学は公立の総合大学で、オーストラリアの首都キャンベラに位置し、治安が良く緑豊かな環境の中にあります。学生数は 1 万人以上で、約 90 か国から 1000 人の留学生が学ぶ国際色豊かな大学です。看護学科は今後さらに交流を深めていきたいと考えています。



キャンベラ大学ディーブ・サイニー学長と、本学中村健一学長が協定書に調印して記念撮影



高齢者ハウスにて記念撮影
(この写真はオーストラリアの地方新聞に掲載されました!)

～卒業生 頑張っています!～



平成 16 年度卒業生
鬼丸友美さん
保健師（広島市）

大学病院の ICU 病棟で 2 年間看護師をした後、平成 19 年から広島市で保健師をしています。今は、広島市安芸区厚生部健康長寿課で地域包括ケア推進や高齢者支援を行っています。私が保健師を目指したきっかけには、最期まで家に帰りたく願っていた祖父の存在があります。祖父が願っていた最期まで安心して自宅で生活できる地域づくりを住民や専門職と共に一歩ずつですが進めています。また、ライフスタイルや価値観の多様化、経済格差等により、高齢者の抱える問題は複雑化しており、よりきめ細やかな個別支援が求められます。支援を行う上で、叶える事の出来なかった祖父の思いや今までの経験が私の保健師としての核となっていると思います。学生の皆さん、多くの人と出会い色々な経験を積んでくださいね。きっとこの経験が皆さんの道しるべになりますよ。

看護学科「学生生活通信」について ご意見、ご感想などお寄せ下さい。

〒723-0053 広島県三原市学園町 1-1 TEL 0848-60-1120 (代表)

FAX : 0848-60-1134 (代表)

E-mail : nskouhou@pu-hiroshima.ac.jp

URL : <http://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/nursing/>

発行 : 県立広島大学保健福祉学部看護学科 広報担当部会



QR コード



県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima